

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 023	提案機関名 一般社団法人神奈川県畜産会
要望問題名 密閉型強制発酵装置の脱臭システムの開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 県内で広く普及している密閉型強制発酵装置の処理過程で発生する臭気が環境問題の原因となっている。おがくず脱臭法があるが、維持管理の煩雑さから、十分能力が発揮できない状況がある。生産現場で維持管理が継続でき、脱臭能力も高く、コストも低い新たな脱臭方法の開発に取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 微生物脱臭装置と活性汚泥浄化槽による密閉型強制発酵装置排気の処理に関する試験(H15～17) 密閉縦型堆肥化装置(コンポ)における脱臭槽の能力向上に関する検討(R3～5)		
対応の内容等	密閉縦型堆肥化装置の排気の脱臭装置として県内で普及するおがくず脱臭槽は、十分な脱臭効果を得るには適宜おがくずを交換する必要がありますが、交換作業が煩雑なため管理の行き届かない事例も見られます。 当所で過去に開発した微生物脱臭装置では、密閉縦型堆肥化装置の排気に含まれるアンモニアを94%以上除去できましたが、装置が非常に大型になることが課題でした。また、当所の環境制御型豚舎に付帯する微生物脱臭装置では、微生物による悪臭成分の分解と循環水の排出及び給水により循環水水質を調整することで、安定した脱臭効果が得られています。 そこで令和3年度から、上記の試験で得た知見を活用しながら、おがくず脱臭槽の改修等で対応可能な微生物脱臭装置の開発及び廃液の処理について、研究を実施しています。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	微生物脱臭装置と活性汚泥浄化槽による密閉型強制発酵装置排気の処理に関する試験(田邊ら、神畜技セ研報No.1、2007) 軽石を利用した低コスト脱臭装置の実証(山田ら、群馬畜試研報第14号、2007)		